3　講演録

「心に響く絵本，未来をひらく言葉」

絵本作家，詩人，翻訳家　石津ちひろ

こんにちは。石津ちひろと申します。今日はしばらくの間，みなさんとご一緒に絵本について，言葉について想いを巡らせながら.....楽しいひとときを過ごせればと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。昨日こちらに着いた時には，ものすごい雨だったので心配していたのですけれども，でも，自分が晴れ女だっていうことを思い出して，きっと大丈夫と思っていたら，本当に，晴れ間が見えました。今日は楽しい時間を過ごしましょう。では最初に，口と心の準備体操という意味で，「あした」という詩を読みたいと思います。まず私が読んでみますね。

「あした」
あしたのあたしは
あたらしいあたし
あたしらしいあたし

あたしのあしたは
あたらしいあした
あたしらしいあした

じゃあ，ご一緒に１行ずつ読んでいきましょうか。タイトルから。
（参加者と石津先生　読む）

「あした」
あしたのあたしは
あたらしいあたし
あたしらしいあたし

あたしのあしたは
あたらしいあした
あたしらしいあした。

はい。ありがとうございます。みなさんとご一緒に読めて，うれしいです。この詩の中には，七文字のひらがなしか含まれていないらしいんですね。私は愛媛県出身なのですけ

れど，愛媛新聞の天声人語のようなところに，この詩について，こんなふうに書いてくださいました。「たった七文字しか使っていないのに，この詩を読むと元気が湧いてくるから，不思議だ」――本当に七文字なのかな？と，数えてみたのを思い出します。ですから，みなさんも気持ちがふさいでしまうようなことがあったときには，ぜひ，この詩を声に出して読んでみてください。

会場の雰囲気もだいぶ和らいできたと思うのですけれども，さらにリラックスしていただくために，ここらで回文について，お話ししたいと思います。

回文をご存じの方。はい。知ってる？（参加者の児童へ向けて質問）どんな言葉を回文って言うんだっけ。（参加者の回答）そうですね。上から読んでも下から読んでも同じになる言葉や文章を回文といいますね。ありがとうございます。

今から，回文をさらにご理解いただくために，私がこの場で回文を作ってみたいと思います。ホワイトボードに書いていただきながらやってみたいと思うのですが，何かこんな言葉を使って回文を作って欲しい，っていうのがありますか？

はい，どうぞ。（参加者を指名）『まさかさかさま動物回文集』は私の本のタイトルですね。ありがとうございます。そう。「まさかさかさま」も回文になってますね。よくわかってくださってますね。

じゃあ，さっき，こんなので作ってほしいって言ったの何でしたっけ。そうそう，「ようかい」。今日は後ほど妖怪の本のご紹介をするのですけれど，「ようかい」っていう単語が出たので，考えてみますね。「ようかい」，逆から読むと，「いかうよ」になりますよね。あっ，たぶん.....妖怪はイカが苦手なんですね。

はい，思いつきました。イカがいっぱいいるらしくって，イカ，うようよで。酔っぱらうことを「酔う」といますよね。で，酔う妖怪。（笑い）つまり，お酒も飲んでいないのに，イカがうようよいると怖くなって妖怪は酔ってしまうということです。読んでみましょうね。はい。

「いか　うようよで　よう　ようかい（イカうようよで，酔う妖怪）」（講師　会場参加者と一緒に読む）

逆から呼んでも「いか　うようよで　よう　ようかい」合っていますね？　ありがとうございます。（会場から拍手）

えー，じつは私，回文を頭の中で考えるんですね。どうやって考えるかというと，文字を頭の中に書いて，それを逆から読んでみて，そこに何かを足していく.....そんな感じです。でもね，何ていうのかしら。私も年齢的にいうと，けっこう危うい年齢なのですけれど，こうしたことをやっているおかげで，まだ翻訳なんかもできるのかもしれません。頭の中に，もしくは心の中に文字を書いて，それを逆にしてみるっていうのは頭の働きにすごくいいみたいです。みなさんもぜひ試みてくださいね。

ほかに何か，これで作って欲しいっていうのがあったら。「鹿児島」（参加者）鹿児島ですね。かごしま。ましごか...まし...まし....（思案中）。うーん，よくわからないんですけど。なんかねスポーツ。スポーツの特訓をしていて，すごくしごかれて，怖い思いをしているようなんです。鹿児島じゃなくって，沖縄あたりでしごかれてるらしいんですね。鹿児島の人はみんなやさしいから，鹿児島に逃げようっていうか，鹿児島に渡っちゃおうってことで，「ま　しごかれた　わたれ　かごしま（ま，しごかれた！　渡れ　鹿児島！）」（笑い）はい。ちょっとこじつけみたいなのですけれど。一緒に読みましょう。「ま，しごかれた　わたれ　かごしま」（参加者　復唱）「ま　しごかれた　わたれ　かごしま」はい。

よろしいですか？　そうそう，自分でシミュレーションのようなことをしていて，鹿児島を使って回文？，それは無理だなと思って昨日は諦めていたのですけれど，本番になったら何とかできました。

他に何かありますか？　何でもいいですので，単語をあげてください。はい，言ってみて。「のりまき」（参加者）「のりまき」。あ，これは簡単ですね。あのね，海苔巻きってよく食べるけど，いつも大体同じような，決まった海苔巻きを食べてますよね？（参加者へ質問）というわけで，「きまりの　のりまき」。すごい簡単なの，ありがとう。（拍手）「きまりの　のりまき」逆から読むと，（参加者復唱）「きまりの　のりまき」でした。

あと一つぐらい。「黒豚」（参加者）。えっ，黒豚。たぶろく...たぶろ...たぶろ...（思案中）あのですね，昔々あるところに.....たぶろくというおじいさんがいました。おじいさんはたいそう豚が大好きで，特に黒豚の，黒豚のくうちゃんをかわいがっていました。というわけで，「たぶろくのくろぶた」。なんか単純すぎてごめんなさい。はい。「たぶろくのくろぶた」でした。ありがとうございました。

こんなふうに回文作りをやってると，これだけで時間が尽きてしまいますので，ここで回文の作品を紹介したいと思います。
じゃあ『よるくまくるよ』，少し読んでみましょう。私が上から読むので，みなさん下から読んでくださいね。
「よる　くま　くるよ」（参加者復唱）
「ねだる　さるだね」（参加者復唱）
「ないたり　うるさいさる　うりたいな」（参加者復唱）
「だんたいだと　はと　だいたんだ」（参加者　笑い）
「は」を「ひ」にしてみましょう。もしかしたら，その方がぴったりかも「だんたいだと　ひと　だいたんだ」。（会場　笑い）
「とばす　おすばと」（参加者　復唱）
「くっきりと　ふとり　きっく」（参加者　復唱）ある程度，体ががっしりしてないとキック力はないんですね。
「いわより　よわい」（参加者　復唱）まあ，当たり前じゃないかという意見もありますよね。
「たつとら　バラ　とった」（参加者　復唱）花好きなトラさんのようですね。
「ねつきいいね　いいきつね」（参加者　復唱）
「きて　すがたが　すてき」（参加者　復唱）
「かつらも　はも　らっか」（参加者　復唱）あれ，なんかうけてる。こういう風にならないように，気をつけましょう。
「このめ　かめのこ」（参加者　復唱）
「さかなの　いの　なかさ」（参加者　復唱）
「いけとぶ　とけい」（参加者　復唱）
「さあ　のりものに　わくわく　わにの　もりの　あさ」（参加者　復唱）
長いけれど，本当に回文だったでしょう？　じゃあ，こんな感じで。続きは，また図書館で読んでください。

次は，『まさかさかさま』，読みますね。こちらは，私の初めての本なのですけれど，長新太さんが，絵を描いてくださったので，しあわせでしたし，ラッキーでしたね。編集者の人から，「どなたか，絵を描いてほしい人っていますか？」って言われて，「長新太さん」

って答えたら，「それはちょっと難しいかもしれない」って言われて。最初，たまたま知り合いだったらしくて佐野洋子さんのところにお願いに行ったところ，「私よりふさわしい人がいるのでは？」というお返事だったので，「どなたでしょう」って尋ねたら，「長新太さん」て。（参加者　笑い）佐野さんがそうおっしゃってくださったので，結局，長さんにお願いできることになった。

はい，ちょっと見てみましょう。「わ」のところから読み上げてみましょう。

「わるい　にわとりと　わにいるわ」（参加者　復唱）皆さん逆から読んでくださいね。はい，次に行きましょう。

「ぞうくん　ぱんくうぞ」（参加者　復唱）

「だっころば　ろこつだ」（参加者　復唱　笑い）はい。

候補として百個以上動物回文を作ったんですね。それで，その中から長さんが選んでくださったんですが，まさか「だっころば　ろこつだ」が選ばれるとは思わなかったですね。でも，こういうヘンな回文を好むところが長さんらしいというか。

「きつね　はりきり　はねつき」（参加者　復唱）

「ちんぱんじいから　かいじんぱんち」（参加者　復唱）お子さんなどは，これが大好きで。「どの回文が一番好き？」って聞いたら，必ず「ちんぱんじいから　かいじんぱんち」って返ってきますね。

「よったとら　ふらふらと　たつよ」（参加者　復唱）

「まくらから　くま」（参加者　復唱）

はい，こんな感じで。まだ延々と続きますので，こちらもよろしければ，図書館などで御覧になってください。以上，回文でした。回文のこと，お分かりになりましたか？（会場　拍手）。回文を作ってみたいなあと思った人（参加者　挙手）。よかった。ぜひぜひ作ってみてください。ありがとうございます。

そういえば，満島ひかりさんっていう方が，回文を作って，それに，又吉直樹さんが文章を書くっていう本，『軽いノリノリのイルカ』が回文の日，回文の日かどうかわからないんですけど，七月十七日，７　１　７の日に出るらしいんですね。その本の中に，私が満島ひかりさんと，回文談義というか，言葉対談っていうか，そのようなものが載ることになっていますので，もしよろしかったら立ち読み（笑い　会場も），もしくは図書館でご覧になってください。

では，なぞなぞが好きな人。（会場の子供達　挙手）なぞなぞ始まるよ，なぞなぞ好き？ありがとう。よかった。では，これから，なぞなぞを出しますね。

『なぞなぞのたび』，これは荒井良二さんが絵を書いてくださいました。それでは，１ページ目のなぞなぞ，見てみましょうか。

「きれいな　はこに　つめてあるのは　きれいな　メロディー　さて　いったい　なあに？」答えが絵の中に，隠れてるんですね。なので，ぜひ見つけてください。「きれいな　はこに　つめてあるのは　きれいな　メロディー　さて　いったい　なあに？」わかったら手を挙げてね。（参加者　答える）はい。オルゴールです。あたりです。

じゃあ，次に行きましょう。「すずに　めを　かき　まどべに　そっと　おいたなら　かわいい　こえが　きこえてくるよ　さて　いったい　なあに？」（２回読む）鈴に目を書くんだって。いったい何だろう。（参加者　答える）はい。あたりです。雀です。ありがとうございます。

そしたら，よおく聞いてね。「あさには　なくて　ひるに　あらわれ　よるの　あいだは　ずっと　いて　あさに　なると　また　きえる　さて　いったい　なあに？」（２回読む）わかった人。じゃあ，水色の洋服を着ている方。（参加者　答える）そうですね。「る」の文字ですね。朝には「る」がありません。昼になったら「る」がついて，夜の間はずっとい

て，それで朝になるとまた消える，「る」の文字です。このなぞなぞ面白いと思ってくださった方は，話のわかる方ですね。（会場　笑い）
　では，次のページ行きます。「やまに　むかって　おおごえ　だすと　やまが　のんびり　へんじする　さて　いったい　なあに？」何だろうねえ。（２回読む）でも，どの絵の中にあるんだろう。ちょっと絵には見えないかも。わかった？　僕ちゃん，わかった？　言ってみようか。（参加者　答える）「やまびこ」，はい，あたりです。ありがとう。
　「いっしょに　たびに　でたはずなのに　とちゅうで　たべられちゃうなんて　さて　いったい　なあに？」（参加者　答える）そうですね，お弁当。ねえ食べられちゃうよね。しょうがないねえ。はい，ありがとうございます。

　これはどんどん続くのですが，次のなぞなぞの本に行きましょうか。今のが『なぞなぞのたび』，次，『なぞなぞおめでとう』を紹介しましょう。こちらはねスズキコージさんに絵を描いていただいていますが，荒井良二さんとは，また違った魅力がありますね。表紙はこんな感じです。
　「だいちのおめでとう」から，まいりますね。「だいすきな　おひさまを　いつも　みている　せいたかのっぽ　さて　いったいなあに？」お子さんでもわかると思います。（２回読む）そう，ひまわりですね。
　では，「みずが　なくても　よく　そだつ　ふしぎな　かたちの　みどりの　しょくぶつ　からだじゅうが　とげだらけ　さて　いったい　なあに？」はい。（指名）（参加者　答える）はい。そう，サボテン。よくわかったね，ありがとう。
　じゃあ，次のページ行きましょうか。「かいて　たのしく　かかれて　めいわく　さて　いったい　なあに？」（参加者　答える）そうです，落書き。あたりです。ありがとうございます。
　「さいしょは　ちょっぴり　とちゅうは　たっぷり　さいごには　また　ちょっぴり　さて　いったい　なあに？」なんて，自分に返ってくる問題を作ってしまいました（笑い）。わかった？　言ってみましょう。やめる？（参加児童とのやりとり）そんなに深く考えるような問題ではないかな。（会場　笑い）（参加者　答える）寿命，ああそうか，最初はちょっぴり，途中はたっぷり，最後には，またちょっぴり。いや，ごめんなさい。何か変な問題でした。「髪の毛」，（会場「ああ」）すみません。
　「かなしいときや　うれしいときや　いたいとき　めからふるあめ　さて　いったいなあに？」なんか詩的ですよね。（参加者　答える）はい。涙です。よくわかったね。すごいねえ。お父さんやお母さんがすごいのかな。（笑い）ありがとう。
　じゃあ次行きましょう。「がっきが　なくても　どうぐが　なくても　むじんとうでもやまの　てっぺんでも　おもいっきり　たのしめる　おんがく　さて　いったい　なあに？」もう，すぐわかるね，皆さんなら。はい。どうぞ。（参加者　答える）ああ，口笛もそうですね。確かに確かに。口笛もそうだけど，ちょうど絵に出てるのは何でしょう？（参加者　答える）歌，そうですね。歌です。はい，ありがとうございました。（会場　拍手）
　じゃあ次に行きましょうか。「じぶんの　からだを　ぬらしながら　ひとの　てを　かわかす　おてつだい　さて　いったい　なあに？」献身的なんですね。「じぶんの　からだを　ぬらしながら　ひとの　てを　かわかす　おてつだい　さて　いったい　なあに？」わかった？（参加者　答える）そうですね。タオルでも合ってますけど。ここでは，ハンカチですよね。はい，ありがとうございます。

　じゃあね，最後のなぞなぞです。よく，耳を澄まして，聞いてくださいね。「めには　みえるけれど　てには　とれない　いつも　これを　わすれなければ　きみは　きっとしあわせさ　さて　いったい　なあに？」（２回読む）これをねえ，これが，わかる人って

すごい，すごいですよ。(参加者　答える)「えがお」あたり！すごい！拍手！ありがとうございます。これ，もう読んでいました？（笑い）ありがとうございます。よくわかりましたね。 そうなんですよね。なんか，幸せだから笑顔になるんじゃなくって，笑顔でいれば幸せ でいられる，というお話もあります。だから，いつも，これを忘れないで。なかなかそう はいかないんですけど，そうありたいですよね。じつはこの本が出たとき，出来上がる少し前にゲラ刷りっていうのが送られて来たんですね。一応，文章がおかしくないかどうかチェックするのですけれど，チェックした時に，このなぞなぞだけ解けなかったんです，私。それで後ろの答えを見たら，「えがお」って書いてあって。

それがね，2011年の３月に震災がありましたよね。福島第一原発のこともありましたし，なんかもう，みんな，日本全体が暗い感じで過ごしていて，その時，まだ３月末だったから，自分もやっぱり，暗い気持ちのまっただ中にいた。

このなぞなぞを作ったのは，前の年だった。「えがお」という答えを見て，「そうか。私，しばらく笑顔を忘れていたよ」と思って。やっぱりこんな時でも，笑顔でいた方がちょっとは幸せでいられるかもと，そう自分に言い聞かせたのですけれども.....やっぱりどんな時でも，できれば笑顔でいたいなあ，と思いました。以上，なぞなぞの時間でした。ありがとうございました。

じゃあ，こんどは，猫の本をご紹介します。絵を書いてくださったのは，ワニワニの本などでおなじみの，山口マオさん。

これはある時，突然マオさんから電話がかかってきて，「今度さ，猫でかるたを作らない？」って提案されて。――マオさんはなぜかいつも，ため口なんですね。――「作らない？」って言われて，「いいですね，じゃあ，ちょっと考えてみますね」って答えて。暇を見つけては，アからンまで，猫にまつわる言葉をせっせと考えつづけました。

ただ，かるたを作ろうっていっても，自分たちだけの企画だったので，一体どうなるのかなあ？と思っていたんですね。そんなとき，講談社の人が何か一緒に本を作りましょう！って言ってくださったので，マオさんとこんな計画があるんですって話したら，「カルタだと，なかなか難しいけれど，本だったら大丈夫かも」っていうことで，無事に出来上がったんです。ちょっとご紹介します。

まずはタイトルが，あいうえおの「あ」からですね。「あそぶため　うまれてきたのさ　ぼくはねこ」っていうふうに始まります。「いつだって　いえでの　よういは　できている」（「探さないでください」の文字に，会場　笑い）猫って本当に隙あらば飛び出して，どこかに行ってしまいたいっていう子が多いですよね。というか，全く外に興味のないタイプの猫と，いつ外に飛び出してやろうかって，つねに隙を狙ってる猫に分かれますよね。次が，「うれしいと　しぜんにのどが　なってくる」ここでは，「お」「おしゃしゃれには　ざらざらべろが　だいかつやく」の絵があるのかな。そうですね。

次が，「か」「かあさんの　おっぱい　ひとりで　のんでみたい」ねえ，たまには独占したいですよね。「く」「くつのなか　はいると　すぐに　ねむくなる」子猫の時は，みんなこんな感じですよね。

次は何かなあ。「し」「しんぱいない　あしたは　あしたの　かぜがふく」かな。これがその絵ですね，「あしたはあしたのかぜがふく」という感じが出てるでしょうか。次は，「そうじきは　ぶきみなかいじゅう　こわいよう」どんな子でも掃除機は怖いんですよねえ。犬って意外と怖がらないんですよね，不思議なんだけど。「たんけんは　いえのなかでもできるのさ」ベッドの中にもぐろうとしてますね。「と」「とぶとりを　みているだけで　ちがさわぐ」ほんとうに血が騒ぐらしいですね。「ぬ」「ぬれたぼく　ひろってくれて　ありがとう」こんな感じだと，ほっておけないですよねえ。「の」「のらねこに　もどりたいけど　もどれない」そう，戻れないんですよねえ。

「ふ」「ふしぎだね　あめのあとには　にじがでる」猫ってね，何かロマンチックなところもありますよね。「ま」「まっている　ぼくはおみせの　まねきねこ」こんなことありますねえ。「みているよ　そらのうえから　きみのこと」猫って，お母さん，恋しがるんですよねえ。「もうすこし　おおきくなったら　とらになる」ふふふ（笑い）。「ら」「らんらんとめがかがやくよ　よなかだけ」「れいぞうこ　あけられるけど　しめられない」まさに開けられるんだけど閉められないんですよね。「ろうかでは　ぼくらがまいばん　うんどうかい」毎晩運動会が開かれるんですね。

次は「ん」なんですけど，「たんたんと　きょうもげんきに　いきていく」その絵がこれなんですね。（笑い）猫にとって，猫にとってもそうだけど飼い主にとって，元気にオシッコをしてくれるのって大事なことなんですよね。うちの猫は二十二歳まで生きたんですけど，やはり最後の方は，オシッコをしてくれるか，うんちをしてくれるか，それがすごい心配の種でしたね。

先ほど，「いかうようよで　ようようかい（イカうようよで，酔う妖怪）」っていう回文を作りましたが，今度は妖怪の絵本を紹介いたしますね。妖怪，お好きですか？（参加者の反応）好きだったらよかった。

最初にご紹介するのは，『妖怪俳句』。妖怪が詠んだ俳句というか，妖怪のことを詠んだ俳句かな。広瀬克也さんっていう方は，妖怪のベテランなんです。妖怪を描くのがとっても得意だし，妖怪に詳しいんですね。そう，妖怪博士と言ってもいいような，広瀬克也さんが絵を描いてくださいました。

では，新年から。「おおぞらを　ゆうゆうととぶ　しろいたこ」一緒に読みましょう。はい。（参加者　読む）これがいったんもめんですねえ。

次はのっぺらぼうですね。「ふくわらい　ぼくはたちまち　にんきもの」はい，せーの。（参加者　読む）

次は，てなが　あしながですね。「かるたとり　だったらだれにも　まけないぞ」（参加者　読む）それはそうでしょうね。

次がぬりかべ。「はねつきに　はごいたなんて　いらないよ」はい。（参加者　読む）これは傑作だと思うんですよね。

ろくろくび。「おぞうには　かくごをきめて　いただくの」（参加者　読む）たしかに覚悟が要りますよね。

次は，春に行きます。節分の次。ばけねこ。「まいにちが　ねこのひだったら　いいのにニャー」（参加者　読む）

ゆきおんな。「ひなだんに　すわってみたけど　どうかしら？」（参加者　読む）また，雪女だ。「ゆきどけの　たよりをきいて　あおざめる」（参加者　読む）

ガイコツ。「さえずりを　きくとからだが　おどりだす」（参加者　読む）

すなかけばばあ。「はるあらし　すながこんなに　まじってる」（参加者　読む）

さとり。「きのめどき　きもちがずしんと　おもくなる」（参加者　読む）

夏に行ってみましょう。鯉のぼりから，もう夏なんですね。だいじゃ。「こいのぼり　なければおれの　でばんだぞ」（参加者　読む）

からかさおばけ。「どしゃぶりや　かさはささずに　さんぽする」（参加者　読む）

かっぱ。「あじさいは　ぼくのなかまさ　あめがすき」（参加者　読む）

次も好きなんですね私。ろくろくびが好きなのかな。「ひまわりと　くびのながさを　くらべっこ」（参加者　読む）

ガイコツ。「じりじりと　ほねにしみるよ　このひざし」（参加者　読む）でも，もっときついのは，クーラーかもね（笑い）。

ゆきおんな，また出てきました。「かきごおり　いくらたべても　たりないわ」という

感じで，ずっと食べつづけています。
　そうだ。次の次に，スイカが出てくるからちょっと見ましょう。スイカ割り，これさっきと似てる，カルタと。「すいかわり　だったらだれにも　まけません」（参加者　読む）
　くちさけおんな。「たねなんて　ださずにたべる　ひとくちで」（参加者　読む）
　きゅうけつき。「かぶりつく　たびにみんなが　おれをみる」
　はい。じゃあスイカを食べて涼しくなったところで，『妖怪俳句』から離れましょう。続きはまた，図書館などでお読みください。（会場　拍手）ありがとうございました。

　あと，ついでというか，最近『妖怪オノマトペ』っていう本が出ましたので，そちらもちょっと紹介しておきます。『妖怪オノマトペ』。オノマトペってわかりますか？
　ハラハラだとかフラフラとか，雨がポタポタ降るとか。私の詩集『あしたのあたしは...』の中に，「あめ」っていう詩があります。「ぼくのまどに　あめがふる　ぽつぽつふると　さびしくて　ぱらぱらふると　きもちよく　ざあざあふると　みんなわすれる　きみのまどにも　あめよふれ」っていう詩なんですけど，その中の「ぽつぽつ」「ぱらぱら」「ざあざあ」，こういうのをオノマトペって言いますね。『妖怪オノマトペ』には，オノマトペしか出てこない。
　じゃあ，早速，夏の様子を見てみましょうか。
　はい。（夏のオノマトペ　講師読む）いろんなオノマトペが出てきますね。でも，これ結構読むのが難しいから，この前一人で読んでいたら，これも，老化防止にはいいんじゃないかな，と思いました。お子さん，お孫さんと一緒に読んだりすると楽しいかもしれないですね。あるいは読み聞かせで読もうと思うと，かなり練習しないと読めないかもしれません。
　「あたらしいいちにちがはじまるぞ！」だいだらぼっちが「ダッダッダッダ　ダダーンッ」と出てきて，うみぼうずが「おいらうまれかわったみたいだ！」「ザバザバ　ザッバーン!!」。「ヤッホッホ～！　キャッホッホ～！」「カタカタ　カッタン」「グイ～ン」「ぱたぱた　ぱたぱた」「ヒャヒャーッ」「ヒャア」「ヤッホッホ～！」「ハッハッ　フガーッ！」。本当にオノマトペしか出てこないんですよ。
　秋になって，まず，ここ，お祭りですね。（秋のオノマトペ　講師読む）お祭りも音だけでお祭りの感じは，一応何とか出ているでしょうか。
　次は，音楽会。音楽会のシーンは，あの，「ズッチャン　ズチャズチャ　テケテケ　ズチャン」っていう，ドラムの人のリズムに合わせて，想像しながら音を考えたんですよね。で，ドラキュラが「ブブンバ　ブビブビ　ブビブバ　ブブー」とオルガンを弾いていて，コントラバスが「ボボーン　ボボーン　ボバビブ　ボボーン」，ヴァイオリンが「ルルララ　ルラルラ　ルルララ　ルル～」って感じでやっています。次に焼き芋の出てくるシーンがあります。「ヒューヒュー　ヒュルルー」「ニッカニッカ　ビャビャーン」「しみじみ　しみじみ　ジンジン　ジジーン」さとりだけは相変わらず落ち着いた雰囲気で。ふふふ（笑い）「ホックホック　ホクホク　ホック」と言いながら，提灯おばけが，さとりさんに，「さ，取りなよ。あったかいから」って言って，一応「さ　とりなよ」って，ダジャレを言ってみたんですけど。どなたか気づいてくれるかなあ，なんて思って。「ホッカホッカ　ホッカッカー」「うまいよ　うまいよ　やきたてだよー!!」「アッチッ チ　アチチチー！」「うまそうじゃ!!」「はんぶん　わけて～！」って続いていますね。
　次は，秋から冬へ。「ピュ～ピュ～　ピュピュ～」「ゴゴゴ　ゴーッ」，また，ほねおんなとゆきおんなが「コツコツ　コッツ　ガタガタ　ガッタ　ガタガッタ」って感じで。鍋のシーンが出てきて，（鍋のオノマトペ　講師読む）という感じで，終始。オノマトペでした。と，いうことで，オノマトペは終わりましょう。ありがとうございました。

『おやおや　おやさい』は，人気絵本なんですけど，私がこの絵本を作って一番うれしかったのは，こんな読書カードをいただいた時。「うちの子には軽い障害があります。本屋さんに連れていっても，これまで一度も自分から本が欲しいと言ったことはありませんでした。けれどもこの本を見て，自分から『ほしい！』って言って，買いました。それから，もう毎日のように寝る前に持ってきて，一緒に読んでいます」っていう読書カードをいただいたんですね。その時は，ああ，こういう仕事をやっていてよかったなあって，心から思いました。

じつは，私の甥の息子もやっぱり本が全然好きじゃなくって，読み聞かせをしようとしても，ぜんぜん興味を持ってくれなかったんですね。ところが，ある時，実家で私がこの本をゆっくり読み，姉たちが後について読むっていうのを，楽しそうにやっていたんです。それでも甥の子どもは，しらん顔してずっと走り回っていたんですけれど，ひととおり読み終わったら私のところにやってきて，「さっきの，おやしゃい（おやさい）のほん，よみたい」って言ってきて，それで読んであげたら，その子は，その時以来，絵本が大好きになって，ほぼ毎日，絵本を読むようになったらしいんです。

こんなふうに，一冊の絵本がきっかけとなって何かが変わるっていうのは，やっぱりとてもうれしいことだし，素敵なことだなって思いました。だから私も，どちらかっていうと本が好きじゃない子の手助けになれるような絵本が作れたことに，深い喜びを感じました。では，読みましょう。また，一緒に読みましょうね。まず私が読みますね。

「そらまめ　そろって　マラソンさ」はい。（参加者　読む）
「にんきものの　にんにく　きんにく　むきむき」（参加者　読む）
「りっぱな　パセリは　つっぱしる」（参加者　読む）あ，元気な声が聞こえてこないな。もう，ちょっと疲れてきたかなあ。
「ラデッシュ　だんだん　ダッシュする」（参加者　読む）
「そろり　そろり　セロリは　はしる」（参加者　読む）
「きゅうりは　きゅうに　とまれない」（参加者　読む）
「かぼちゃの　ぼっちゃん　かわに　ぼちゃん」（参加者　読む）あれ，なんか，皆さんもうトーンが低くなった。疲れてきたかな。
「えのきの　あにきは　のんきに　あるき」（参加者　読む）
「まって　まってと　トマトの　おとうと」（参加者　読む）
「はくさい　はくしゅは　てれくさい」（参加者　読む）
「とうがらしの　とうさん　とうとう　いっとうしょう」（参加者　読む）
「どんな　いろでも　めでたい　メダル」（参加者　読む）

はい。『おやおや　おやさい』でした。ありがとうございます。

それではここで，私の翻訳した絵本をご紹介して，あとは，みなさんと一緒に詩を読みたいと思います。この『詩ってなあに？』っていう絵本。主人公のダニエルっていう男の子が，近くの公園に行ったとき，「詩のはっぴょうかい」を知らせるポスターを見つけるんですね。そのときダニエルは，「詩ってなんだろう？」と首をかしげました。そうしたら，そばにいた 蜘蛛が答えてくれるんです。「詩って　いうのはね，あさつゆの　きらめき　のことなの」それが月曜日でした。

火曜日にダニエルは，オークの木の上にいたハイイロリスに尋ねます。「ハイイロリス さん！　詩って　いったい　なあに？」すると，「そうだなあ……おちばの　かさこそとなる　おと　が　詩だと　おもうよ」

そして，そのあと，木曜日，池に行くんですねえ。そこで，船を浮かべて遊んでいると，ひょっこりカエルが現れます。「カエルさん！　詩って　なんなのかなあ？」「そりゃあ　も

ちろん，ぴょんっと　とびこみたくなる　ひんやりとした　みず　のことだわ！」
　そして，土曜日。ダニエルは滑り台のかげで，コオロギに出会います。「やあ　コオロギさん！詩って　なんだと　おもう？」「すると　コオロギは，はねを　こきざみに　ふるわせながら，うっとりするような　おんがくを　かなでてくれた。」「これが，コオロギさんの　詩なんだね？」「そのとおりだよ　ダニエル！ゆうぐれの　かぜの　なかに　とけていく　メロディー，それが　詩 というものなんだ」
　そして，いよいよ「にちようびの　あさ，ダニエルは　はればれとした　きもちで　めを　さました」「きょうの　詩の　はっぴょうかい，すごく　たのしみだなあ！　ぼくも　さんかして　みようっと」と言って，本番では，これまでの報告をして，最後に，「ぼくも　いつか　じぶんの　詩が　みつけられるかなあ？」って言う。
　その帰り道，「ゆうひに　あかく　そまった　いけを　ながめるうちに，ダニエルは　こころが　すみわたっていくような　きがした。『もしかしたら，これが　ぼくの　詩　なのかも.....』ダニエルが　いうと，トンボが　おおきくうなずいた。『うん，きっと　そうだと　おもうよ！』ということで，ダニエルはついに，自分の詩を発見するのです。
　みなさんにとっての詩，それぞれの人にとっての詩ってあると思うんですよね。ですから，それが見つかるきっかけになれば嬉しいなっていうふうに思います。（会場　拍手）ありがとうございます。『詩ってなあに？』でした。
　次ご紹介する『わたしの　すみか』なんですけれども，これは，『あおのじかん』っていう，本を書いた，イザベル・シムレールさんっていうフランス人の方の本なのですけれど，とっても綺麗で繊細な絵を描く人です。この『わたしの　すみか』っていう本に登場するのは，貝殻で天井を飾り，砂のソファーでくつろぐたこ。水の中に小屋を建てるビーバー。葉を巻いてゆりかごを作るハシバミオトシブミなど.....こんなふうに地球上には，自分で家を作る生き物がたくさんいます。「みなさんのために，じまんの巣づくりや，すてきな住まいをとくべつ公開してくれるそうです！」という案内文が裏表紙に載っているように，二十七の生き物たちの，知恵と工夫に満ちた夢のようなすみかを紹介してくれています。
　例えば，サボテンフクロウの暮らす「サボテンのあばらや」とか，セアカカマドドリの住む「どろのバンガロー」ですね。あと，ヤドカリが次々に.....ヤドカリって，どんどんおうちを変えていきますよね。その家探しの様子について紹介していたり，あと，「オートクチュールの いえ」って言って，オナガサイホウチョウって本当にくちばしで糸を抜い合わせるような感じで，草の茎やクモの糸を使って自分で家を作るんですよね。そうした様子がここでは，事細かに再現されています。ケヤリムシは，管の中に自分のこの羽のような体を差し込んでいます。で，あと，マダガスカルオナガヤママユは「絹の　おやしき」を作ります。すべてが，いろんな意味でとっても興味深い。スズメバチの「紙ねんど宮殿」とか，シロアリの「ねんどの摩天楼」，そして「ミツロウの王国」を作るのは普通のミツバチですね。あと，シャカイハタオリっていって，木に巨大な「わらぶきの　いえ」を作るものもいます。また，カヤネズミはこんなふうに立派な「草のロッジ」を作りますし，キムネコヨウジャクっていう鳥は，「あみあみロッジ」ともいうべき精巧なおうちを自分で編み上げるんですよね。あとは，「木の上の寝床」を用意する，スマトラオランウータン。オランウータンは毎晩毎晩，自分の寝床を作り直すらしいんです。そんな様子が一つ一つ，とても丁寧に描かれていて，見ているだけでも楽しいのですが，ずっと眺めるうちに，その動物とか鳥とかそういうものになったような気持ちになりますので，ぜひまた，どこかでご覧になってみてください。『わたしのすみか』でした。ありがとうございます。

　これからご紹介する『マークとピクシー』っていうのは，リスと猫の友情物語なんですが，最初は猫のピクシーがリスのマークのことを狙っていて，マークは逃げてばっかりっていう感じだったのですが，ある時ピクシーがけがをして，二人がお互いに，身近にいる

時間が長く続いたんですね。そしたらその間に友情が芽生えて，そのまま友情を育んでいくっていう，そんなお話なのですけれども，結構文章が長いんです。英語がとってもリズミカルで，流れるように書かれていたので，その感じを日本語でも表現したいと思って，一生懸命声に出して読みながら翻訳していったんですね。かなり大変でしたけれど，後で読んでみると，ああ，やっぱり楽しいなと思えるので，どんなものでもやっぱり声に出して読んでみるって大事なことですね。というわけで，もしよろしければ図書館などで見つけて読んでみてください。

翻訳絵本の最後の一冊，『アナトール　パリの空をとぶ』。これはねずみの冒険物語なのですけれども，あるところに，大きな凧を拾ったアナトールっていう，ねずみがいたんですね。一家の主でパパなのですが，パパがその破れた凧を直してるときに，子どもたちが上に乗って遊んでいたんです。ピューッと風が吹いたとたん，その大きな凧は一家を上に乗せたまま，地上を飛び立ってしまうんですね。凧は，さらに高いところまで上昇していって，パリの空を飛びつづけるっていう，そんなお話です。そのねずみたちが健気で可愛らしくて，そしてパリの街の様子もよくわかりますし，途中クロウタドリに出会ったり，エッフェル塔の中にあるレストランのそばを通ったり……と楽しめますので，こちらもぜひご覧になってください。そして，できれば声に出して読んでみてください。ありがとうございました。（拍手）

あとはね，せっかく，ここにはもう読める人たちばっかりがそろっているので，これから詩の本を一緒に読みたいと思うんですね。『ねこのこね』と『猫とワルツを』は映像があるのですけれど，まずは「あしたのあたしはあたらしいあたし」と，「ほんとうのじぶん」，みなさんにも読んでもらいたいと思っています。まずは私から，何か読んでみますね。今は夏ですが，夏とはあまり関係がないかもしれないのですけれど，これを読みます。「にわのばら」

「にわのバラは　きせきてきに　きょうもげんき　きついかぜにも　しろいゆきにも　つよいあめにも　くじけることなく　にわのバラは　あかくさく　ちいさくさく　かたくさく　にわのバラは　きせきてきに　きょうもげんき」（拍手）はい。「にわのバラ」でした。

館長さんはいらっしゃらないでしょうか？　いらっしゃる！　いらっしゃいました。先ほど，この本を選んでくださっていたので，よろしければ，何か一つ読んでいただけますか。はい，東條館長です。（会場　拍手）

（東條館長）それでは，失礼。読ませていただきます。初めて見る文章なので，ちょっとうまく読めるかどうか……。はい。よろしいですか。
「まんまるメガネ」という，詩を読みます。（東條館長　詩の朗読）
「まんまるめがね」でした。失礼いたしました。（会場　拍手）

ありがとうございました。いろんな人の声で読んでいただくのって，とっても新鮮でいいですね。そしたら，今度は，『ほんとうのじぶん』の中から読んでみます。一つ。ちょっと長い詩だけど読みますねえ。「ひとりじめ」

「ゆうかんをとってきて　といわれて　そとにでたら　うつくしい　いわしぐもが　ひろがっていた（？）　まるで　にじを　まきちらしたみたいに　きらめいていた」「こんなにも　こうごうしいものを　ひとりじめしちゃいけない　そうおもってぼくは　かあさんをよんだ　ゆうはんのじゅんびでいそがしいの　というへんじがもどってきた　つぎに　いもうとをよんだ」「あたしいま　ピアノのれんしゅうちゅうなの　というかんだか

いこえが　かえってきた」「しかたがないから　ぼくは　うつくしい　いわしぐもを　たったひとりで　ながめつづけた　やがて　なないろにきらめいていた　いわしぐもは　いがいなほどあっさりと　にしのそらから　きえた」「モノクロームにもどった　にしのそらをみあげながら　おもった　これからぼくは　さっきひとりでながめた　こうごうしい　いわしぐものすがたを　こころのなかに　かかえながら　いきていくことになるのだな　と」

これが「ひとりじめ」でした。そうしたら，次は副館長さん，先ほど選んでくださった『ほんとうのじぶん』の中から，お読みください。

（三上副館長）それでは失礼して。「くじゃく」（三上副館長　詩の朗読）以上でした。（会場　拍手）

はい。ありがとうございました。こんな感じで，いろんな人の声で聞きたいなあと思っているんですけれど，この『ねことワルツを』をご紹介した後，「読んでみてもいいよ」って，思われる方がいらしたら，ぜひ聞かせていただきたいと思います。まず『ねこのこね』ってどんな感じの絵がついているかだけ，少しご紹介しましょう。四季が過ぎていくんですね。最後の「はるになったら」っていう詩を読みたいと思います。

「はるになったら」「われる　われる　こおりが　われる　はるになったら　こおりが　われる　みずうみじゅうに　ひろがった　ぶあついこおりが　とつぜん　われる」「はるのたいよう　たっぷりあびて　おおきなあくびを　するように　あるひとつぜん　ぴきっと　われる」「ひらく　ひらく　つぼみが　ひらく　はるになったら　つぼみが　ひらく　ひろいのはらを　うめつくす　はなのつぼみが　とつぜん　ひらく」「はるのたいよう　たっぷりあびて　ちいさなあくびを　するように　あるひとつぜん　ぽわっと　ひらく」

この「はるになったら」っていう詩には思い出がありまして，今年九十四歳になる母親がいるのですけれども，母は九十歳まで，コロナ禍になるまではずうっと元気で，お茶の先生をしていたんですね。コロナ禍でお茶のお稽古やお茶会が中止になって，急に元気がなくなりました。家にこもってばかりで，外には一切出かけなくなってしまって，「外は，もう歩けない」って言うんですね。「手押し車を押して歩けば」って言っても，「それは恥ずかしいから嫌。おばあさんみたいだから.....」って。けれども，出来上がったばかりの『ねこのこね』を送ったところ，三日後くらいに姉から電話があって，「今から，お母さんが詩を読むから聞いてね」って言うんです。電話口から母の声が聞こえてきて，「.....はるのたいよう　たっぷりあびて　おおきなあくびを　するように　あるひとつぜん　ぴきっと　われる」と，とても上手に読んでくれたんです。なんだか感動しました。そして，その直後から，母に変化が見られるようになりました。外に出て，手押し車を使って歩いてくれるようになったのです。つまり，氷がぴきっと割れるように，心が開放されたみたいなんですね。そうして，普通に外に出られるようになった。だから，やっぱり声に出して何かを読むっていうのは，若い人にとってもそうだけど，年齢を重ねた方はなおさら，頑張って読んでいたら，それで自信もわいてくるし，元気も出てくるんだなって。実践的に思ったんですよね。それとはまた別の話ですが，私も家で，自分の作品を作りながら，いつも声に出して読んでみてるんですけれど，声に出して読むっていうのは本当に大切なことだなあ，と改めて感じています。

じゃあ，最後の本ですが，『猫とワルツを』。どんな絵がついてるかっていうと，これはフジコ・ヘミングさんの絵です。フジコさんは，つい先頃お亡くなりになりまして，本当に残念だったのですけれど，何か一緒に本を作りましょうとお約束したのが，本が出来上がる十二年前のことだったんですね。編集者の人が楽屋をお尋ねして，「この言葉に絵をつけてくださいますか？」ってお願いしたら，「いいわよ」って即答してくださったのですけれど，十年間の間に，描き上がった絵が一枚だった。この調子でいったら，二十年で二枚。

だからもうこの絵本の実現は無理だなと思っていたら，ちょうどコロナ禍が始まり，コンサートがすべて中止になった。それで絵を描いていただけるようになり，この絵本ができ上がったというわけなんです。

この最初の詩，読んでみます。『どこの　こねこ？』「この　ねこ　どこの　こねこ？　このこたちは　ひろい　うちゅうの　ちいさな　ほしの　ちいさな　くにの　ちいさな　まちで　おもいのままに　いきている　じゆうきままな　こねこたち！」フジコさんが生涯で最後に描いた絵というのも，ここに載っています。「ねことワルツを」という詩の絵なのですけれど.....。この絵がついた詩を読みます。

「ねことワルツを」「アン・ドゥ・トロワ　アン・ドゥ・トロワ　こんや　わたしは　ワルツを　おどる　パパと　さいごの　ワルツを　おどる　アン・ドゥ・トロワ　アン・ドゥ・トロワ　パパにだかれて　ワルツを　おどる　くすくす　わらって　ワルツを　おどる　つきの　ひかりに　てらされて　パパと　さいごの　ワルツを　おどる」「アン・ドゥ・トロワ　アン・ドゥ・トロワ　あした　わたしは　ワルツを　おどる　ねこと　はじめて　ワルツを　おどる　アン・ドゥ・トロワ　アン・ドゥ・トロワ　ねこを　だきしめ　ワルツを　おどる　なみだ　ながして　ワルツを　おどる　つきの　ひかりを　あびながら　ねこと　はじめて　ワルツを　おどる」

フジコさんは，自身の大切な思い出を込めて描いたということで，ご自分でも，この絵がとっても気にいってらして。フジコさんにとってお父さまは，とても大きな存在だったようなんです。そうしたことを聞くにつけ，涙なしには読めない詩ですよね.....。この絵本ができ上がって，編集者が楽屋にいらっしゃるフジコさんのところにお持ちしたら，「ばんざーい！」って言って子どものように喜んでくださったらしいんですね。そういう純粋なフジコさんの，その笑っているお顔が瞼に浮かぶようですね。

どの詩でもいいのですが，何かお読みになっていただけますか。（参加者　挙手）（会場　拍手）

（参加者）すいません。失礼ながら読ませていただきます。「ポプラなみき」という詩を読ませていただきます（参加者　読む）。以上です（開場　拍手）。

まあ，素晴らしい。ちょうど声とぴったりでしたよね。ありがとうございました。今の方の後だとちょっと，手を挙げてくださる方が，なかなか.....，勇気がいるとは思うんですけれど，でも，女性の方のお声もちょっと聞いてみたいと思いませんか。たまたま今読んでくださった方が男性の方だったので。（参加者　挙手）はい。お願いします。もう，お時間なので，最後の方となります。ありがとうございます。（開場　拍手）

（参加者）『ねことワルツを』の中から選びます。開いたページを読みます。「ひまわり」（参加者　詩の朗読）ひまわりでした。

とても良かったです。みなさん，ご協力してくださって，ありがとうございました。お上手な方がそろっているようでしたので，もう少し早い時間に始めていればよかったのですけれど，本当にありがとうございました。あっという間に時間になってしまいましたが，もし，ここでよろしければ質問なり感想なり，何かございましたら，伺いたいと思います。よろしくお願いします。

（参加者からの質問）

ありがとうございます。今日は，お会いできてとても嬉しいです。出だしから聞いている人たちを巻き込んで一緒に参加させてもらえたのが，とても楽しかったです。

聞いてみたかったのが，先生はどうやってフランス語と出会ったのかなっていうのと，

あとさっき，愛媛出身だって，私も豊後水道挟んで別府出身なんですけど愛媛だと，俳句で，リズムがとっても生活の中に，そういうのがあったのかなあと思ったりして，二つ，聞いてみたいな，と思います。

（石津先生　回答）

わかりました。ありがとうございます。まず，フランス語との出会いっていうのは，父親が映画が大好きで，別の仕事をしていながら，副業として，急に映画館を始めてしまったんですね。それで，私が小学校１年生から６年生までの間，うちが映画館をやっていたんです。その時に黒澤映画なんかも多かったんですけれども，東宝と大映と，あと洋画をやっていて，その中で『禁じられた遊び』っていう作品が上映されて。フランス語を聞くうちに，ああ，フランス語って綺麗だなあ！　とうっとりしたのを覚えています。いつか大きくなったら勉強したいなあと思うようになって，やがてフランス語を学ぶようになりました。それでフランスにも行くことになったんです。

あと，俳句っていうか言葉ですけれども，言葉に関してもやっぱり父親の存在っていうのが大きかったんです。愛媛で生まれて，しかも私，誕生日が９月 19 日。あ，回文なんですけど，正岡子規の命日なんですね。ですから，小さいときは，そんなこと言われても全然うれしくなかったんですけど，「正岡子規の生まれ変わりじゃ」なんて言われて，いやいや，そんな.....って感じなのですが，そういうことを聞きながら育ったのと，あと父親が，私を寝かせつけるときに，「チーターチンコロ　ころりと眠れ。眠った笑顔はまたかわいい」などと唱えながら，寝かしつけてくれてたり。また，「チーちゃん，チーちゃん.....」と呼んでいたので，背がだんだん伸びてきたら，「大きゅうても　チーちゃん」とか言ったり。いつもそういう，なんか冗談というか，そんなことばかり言ってる父親だったんですね。さらには，東宝の「きぬたまつり」。そう，映画館の館主たちが集まるお祭りがあって，父親が東京に行って戻ってきたときに，――昔 ユーミンっていう，香港の人気女優がいたんですけど，――「ユーミンが『チーちゃんに よろしゅうに』って言いよったぞ」って言うから，私が，「そんなん嘘ばっかり」って言い返したら，「スクリーンからチーちゃんのこと，いつも見よるらしい」なんて，そういう架空の絵空事を好んで口にするような父親だったので，そうした影響も受けているのかなあっていうふうに思っています。よろしいでしょうか。（会場　拍手）ありがとうございます。他にどなたか，いらしたら.....。

（参加者からの質問）

今日は石津さんと，会場のみなさんと，回文とか詩とか一緒に朗読できて，すごく楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。うちにも猫がいるんですけども，石津さんも二十二年一緒に暮らされて，作品にも何度も登場する猫なんですけど，石津さんにとって猫ってどういう存在なのかなっていうのをお聞きしたいなと思います。

（石津先生回答）

そうですね。アルジェリアにいるときにも出会って，それから飼い始めたのですけれど，そのあと，娘が，移動教室に行った際，猫を拾って，二匹も連れ帰ってきた。それがきっかけで，猫と生活するようになったのですけれど，もう奥が深い。奥が深いっていうか，知れば知るほどわからなくなる。先が読めないところが興味深いですし，毎日毎日，いろんなことをやってくれます。いつも慰められるし，なんか愛おしく思うし，もういろんな意味で魅力的な存在だなあと思う。

でも，ここで告白しなければならないのですが，１年半前に娘が保護犬を山口県から連れて来たので，犬を飼っているんですよね。ですから，今家にいるのは犬なのですけれども。犬って本当に単純で分かりやすくて。猫とは違った，また別の魅力があって。で

も犬を飼えば猫の魅力もますます分かってきますし，やっぱり動物ってそれぞれ，みんなかわいい.....というふうに思っています。ありがとうございました。
最後に，あと１人かなあ，とは思うのですけれど。もし何かございましたら。

（参加者からの質問）
今日は本当に楽しいお話ありがとうございました。私ぜひ帰りになぞなぞの本買って帰りたいなと思ったのですけれども，ありがとうございます。孫が言葉を発するようになったので，使いたいなと思うんですけれども，先生が想定された質問と違う答えばっかり自分は出てきたんですけれども，なぞなぞの本の楽しみ方の，ちょっとしたアドバイスいただければ，うれしいなと思います。

（石津先生回答）
はい。ありがとうございます。そうですね，やっぱり違う答えが出てくるのが，出てくるからこそ，楽しめるような気がします。そう，なぞなぞの答えは一つじゃないと思うんですね。世の中の疑問についても，やっぱり答えは１つじゃないと思うし。ですから，ここに書いてある答えは作者の考え方なんだな.....っていうふうに，軽く流していただければといいと思います。お子さんが，お孫さんでもいいのですが，違う答えを出したとしたら，「それも正解よ。ここには，別の答えが書いてあるけど.....」っていうふうに，お伝えいただければ，そんなふうに楽しんでいただければ，と思います。よろしいでしょうか。はい，ありがとうございました。（会場　拍手）

今日はね，雨の予報にもかかわらず，お日さまも顔を出してくれて何よりでした。そんな中，みなさんとご一緒に言葉を通じて，楽しい時間を過ごすことができました。言葉っていうのは，かなり自由なもので，逆からだって読めますよね。そういう意味で，言葉を通じて，ぜひ，気持ちを開放し，心も解き放って欲しいと思います。いつもみなさんにお伝えしたいと考えているのは，言葉を大切にすることは自分を大切にすること.....人生を大切にする，ということです。言葉を大切にしながら，ぜひ豊かで，すてきな人生を歩んで いってほしいと思います。今日はどうもありがとうございました。